

第一貨物 越南物流企業に出資

まずは日本へ一貫物流

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）はベトナムの総合物流企業と資本提携を結び、積み合わせ輸送をはじめとする両社の物流ノウハウを生かした国際一貫物流体制を構築する。（矢田 健一郎）

LCIと特積み
を連携させ

海上コンテナ小口運載（LCI）が強みのInternational Logistics 成32年の2度に分けて出



8日、山形市の本社で提携を発表（右から武藤社長、ミン社長）

規開拓を進めつつインターロク社の既存顧客への提案も行い、ベトナム製品の日本への輸入で、ドア・ツー・ドアの物流体制構築を目指す。

10月以降、第一貨物のハノイ駐在員事務所からインターロク社にスタッフ1人を出向。出資完了後、役員1人を置く。

ベトナムには約1500社の日系企業が基出。インフラ整備やアセアン経済統合の進展で、物流需要も活発・高度化している。第一貨物の特積み

をメインとする国内物流網と、インターロク社の国際物流網を絡めた一貫輸送で盛り上がる需要に応えていく。当面は、新28年度の売上高は142

6億（約7億円）。

第一貨物の海外展開は23年、家電量販店の物流支援を目的に上海特耐王第一物流を中国で設立したのが最初。その後、上海特耐王第一物流は現地で生産した欧州向けパレル品の検針事業を展開。26年にはハノイに駐在員事務所を設け、現地での運搬ニーズや進出日系企業の動向を調査してきた。子会社ナレトランスが通関・コンテナヤード業、グループ会社のDT商事が中古トラックの輸出を手掛けた。周

辺事業も展開している。
施設や車は現地資本に展開していく」と方針説明。「インターロク社との提携を機に、両社の強みを合わせたドア・ツー・ドア輸送を通じて「日本企業との取引拡大を図りたい」

「国際事業は、施設や車両をしっかりと持つのではなく、現地企業との提携を基本に展開していく」と万針説明。「インターロク社との提携を機に、両社の強みを合わせたドア・ツー・ドア輸送を通じて「日本企業との取引拡大を図りたい」

インターロク社のミン社長は「当社最大の強みはLCI。第一貨物と協力し、日系企業開拓や、ハブ・ツー・ハブからドア・ツー・ドアへの領域拡大につなげたい」と笑顔を見せた。